

平成 25 年度 理学部卒業予定者アンケート

理学部では、平成 26 年 1 月から 2 月末にわたり平成 25 年度理学部卒業予定者を対象に大学生生活全般に関するアンケートを実施した。今回の対象者は、平成 19 年度学部改組後 4 回目の卒業生に当たり、274 名中 212 名から回答があった。回収率は 77%であった。

「Ⅰ. 分析と今後の教育へのフィードバック」は平成 26 年度理学部の各コース長が担当した。また、「Ⅱ. 集計結果」は理学部大学点検評価委員会が受け持った。

Ⅰ. 分析と今後の教育へのフィードバック

数学コース

平成22年度、23年度、24年度、25年度の4年分のアンケート結果に基づいて分析を行い、今後の数学コースの教育等にどう生かしていくかについて考える。平成22年度、23年度、24年度、25年度の数学コース卒業予定者56名、59名、65名、51名のうちそれぞれ35名、52名、60名、43名から回答を得た。以下で各年度のパーセントを（22年度、23年度、24年度、25年度）で表すことにする。

【全般的な質問】

「高知大での勉学や生活で満足できたもの」のうち、友人との出会いは（74、83、70、70）であり、かなり割合は高く、友人関係では概ね満足していると思われる。また研究室での卒研やゼミについての割合の推移をみると（57、63、72、51）であり、急激な落ち込みとなっているが、授業については（26、33、33、47）であり、こちらの数値は飛び跳ねている。

「高知大での勉学や生活で満足できなかったもの」のうち、授業についての数値を見ると（57、27、33、37）であり、若干の増加傾向が見られる。授業内容に満足していない学生数は4、5年前に比べると減少したと言ってよいと思われるが、可もなき不可もなきと感じる授業が増えたということであろうか？卒研やゼミに関しては（3、6、2、9）であり、低いとはいえ、悪化している。課外活動への不満は（11、27、23、37）であり、満足は（46、42、25、33）である。満足度は減少傾向にあると言ってよいだろう。教育研究施設（学習環境）については、満足・ほぼ満足を合わせると（89、94、90、89）であり、学習環境に不満はほぼ無いようである。

就職支援活動については、満足・ほぼ満足を合わせると（66、61、78、79）である。数学コースは中学・高校の教員志望多く、他コースに比べ高い傾向が見られる。ボランティア活動への参加は（37、29、32、44）と若干の増加の傾向が読み取れる。また、満足・ほぼ満足の合計は（93、100、84、90）であり、他コースと同様の満足度である。

【転学部・転学科・転コース】

転学部・転学科・転コースの希望者は（0名、2名、1名、1名）であり、全員申請は認められている。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は 40 以上 (23、6、13、12)、30-40 (11、23、30、9)、20-30 (34、46、32、44)、10-20 (14、15、20、21)、10 以下 (17、8、5、14) となっている。

満足できた授業数の分布は下側に重みを増してきている。各区間の代表値を (45, 35, 25, 15, 5) とおいて、満足した平均授業数を求めると (25.7、24.9、27.6、23.4) である。満足した理由については親切で丁寧な授業であった (60、63、67、53)、授業が一方的でなかった (20、15、22、14)、専門分野の実力がついた (63、50、63、47) となっている。満足できなかった授業の数は、40 以上 (14、2、3、0)、30-40 (0、2、0、7)、20-30 (14、12、18、26)、10-20 (20、25、18、30)、10 以下 (51、58、60、37) となっている。不満な平均授業数は (15.4、11.3、11.6、15.3) である。25 年度と 22 年度の平均はほぼ一緒であるが、22 年度は極端な 2 極化が見られるのに対して、25 年度の分布は中心部に重みを増しているため、不満の授業数が均一化している。満足しなかった理由のうち不親切でわかり難い授業が (49、44、57、37)、実力がつかなかったが (37、46、28、47)、一方的な押し付け授業だった (38、38、45、35) であった。

【標準履修モデル】

基礎科目の内容や難易度について肯定的な回答は (90、94、98、96) であり、不満はないようである。また専門科目についての内容や難易度については (95、90、98、95) であり、こちらも多くの学生が肯定的にとらえている。教育目標と履修モデルについて合致していたかについては肯定的な回答が (80、91、88、93) であった。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に肯定的な割合は (49、50、49、40) である。また「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい。」という要望に対し、肯定的な人は (26、38、33、63) であり、レベルを下げてほしいと望む学生がこの学年は突出していた。「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対しては、肯定的な意見が (37、40、55、72) である。具体的な要望には、マナーやコミュニケーション能力など社会人としての一般常識に関することなどが多くあった。この学年の卒業予定者のみに特別な対応を試みたという記憶もないが、かなり特異な結果となっている。

【成績評価】

成績評価については、否定的な回答が (6、13、15、14) と例年並みである。シラバス上で成績評価基準は記載されているが、授業でも明確に伝えることは重要であろう。

【授業改革】

授業科目数と内容の適切さについては否定的な回答は (12、2、5、0) であった。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員制度については肯定的な回答は (94、96、95、93) であり、どの年度でも多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようである。

【自由意見】

いくつかの自由意見が寄せられたが、ほとんどが満足したという肯定的な意見であった。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

「自由意見」において、「必要単位がわかりにくい・・・」というものがあつた。そのた

め、今年度は2学期開始直前においても履修のための相談室を設けたが、相談者は極めて僅少であった。たぶん来年度も開催されると思われるが、多くの学生の中に強い要望があるのか少々疑問ではある。ところで、この学年のアンケート結果は過去に比べかなり特異なものとなっている。卒研の満足度は急降下し、授業に対する満足度も芳しいものではない。授業のレベルが高すぎると感じる学生が倍増している。昨年度の評価が良好だっただけに、少々驚きである。学年ごとに特性があり、勉学に対する人的環境も異なるとはいえ、この学年特有の現象なのか、判断しかねている。教える側に問題があったとすれば、ここ数年で数学コースを選択する学生が増え、細かく指導するには人手が足りず、教員にも疲弊の傾向が見られる。これは理学部の大括り入試などの制度上の問題とも関連し、教員個人の創意工夫のみでは対応できなくなったように感じる。とはいえ、大学院生の協力の下、学部学生への学習支援（ピア・サポート）をH24年度から立ち上げ、学生たちの意欲に応えようと試みている。まだ上手く機能しているとはいえないかもしれないが、この試みが徐々にでも効果を上げるよう努力したい。また、学問基礎論において各コースの教育体系を説明できる場なども設けられているので、それらも利用しながら、大学での数学の学び方などについて丁寧に解説することなども怠らないように努めたい。

また専門科目への要望にマナーやコミュニケーション能力の上達を願うものがあった。数学の講義内容で対応することはなかなか難しいが、演習・セミナー等でのやり取りの中で涵養されるように取り組んでいきたい。

物理科学コース

平成 23 年度、24 年度、25 年度の 3 年分のアンケート結果と以前のものとは比較し、それに基づいて分析を行い、今後の物理科学コースの教育等にどう生かしていくかについて考える。平成 23 年度、24 年度、25 年度の物理科学コース卒業予定者 18 名、15 名、24 名のうちそれぞれ 11 名、4 名、12 名から回答を得た。以下で各年度のパーセントを（23 年度、24 年度、25 年度）で表すことにする。

【全般的な質問】

「高知大での勉学や生活で満足できたもの」のうち、「友人との出会い」は（82%、75%、58%）であり、かなり割合は高く、平成 23 年度と平成 25 年度は一番であった。また「研究室での卒研やゼミ」については（73%、100%、58%）と同様に割合は高く、平成 24 年度と平成 25 年度は一番であった。研究室での活動と横のつながりが大学生活の印象として強く残っているのは、地方大学ならではの特長といえよう。また授業については（50%、50%、33%）とそこそこの数値に落ち着いている。一方で、「高知大での勉学や生活で満足できなかったもの」のうち、授業についての数値を見ると（36%、0%、25%）となっており、授業内容に満足していない学生が一定数存在する。今後も各教員が授業内容について検討をすることが必要であろう。満足できないもののうち上昇傾向にあるのは課外活動であり、（18%、25%、25%）であった。課外活動を満足できるものと回答した学生は（27%、50%、33%）と依然相対的には多いものの、今後の動向を注視したい。

教育研究施設（学習環境）についての満足度は、満足、ほぼ満足を合わせると（82%、90%、92%）であり、学習環境は十分に整っていると考えて良さそうである。高知大学の就職支援活動については、満足、ほぼ満足を合わせると（36%、50%、42%）であり、ほぼ横這いであ

る。物理の素養を身につけた者の社会での活躍の場は広い。就職率が上がれば満足度も上がると考えるのも早計であり、たとえ卒業と就職の時期があくにせよ、本人にとって納得のいく就職ができるよう長い目で見守るのも大事な支援なのかもしれない。

ボランティア活動への参加は(45%、0%、8%)と数値的には低いものである。しかし、満足、ほぼ満足と答えた学生はうち(75%、NA、100%)であり満足度は大きいようである。これらの活動がキャリア増進につながれば幸いである。

【転学部・転学科・転コース】

転学部・転学科・転コースの希望者は(0名、0名、0名)であった。今後も、転入・転出については柔軟に対応していきたい。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は40以上(0%、25%、17%)、30-40(9%、0%、25%)、20-30(45%、0%、25%)、10-20(18%、25%、33%)、10以下(27%、50%、0%)となっている。年度によってばらつきがあるが、満足できた授業の数が30以下の割合が高い。満足できた授業の数が30以上については、平成23年度の落ち込みが顕著であるが、その後増加傾向にある。満足した主な理由は、「専門分野の実力がついた」(55%、100%、75%)、「親切で丁寧な授業であった」(91%、100%、58%)、「教員の熱意が感じられた」(36%、25%、42%)であった。満足できなかった授業の数は、40以上(9%、0%、0%)、30-40(9%、0%、0%)、20-30(0%、0%、8%)、10-20(36%、0%、17%)、10以下(45%、100%、75%)となっている。満足しなかった主な理由は、「実力がつかなかった」(18%、50%、67%)、「一方的な押し付け授業だった」(27%、50%、33%)、「内容は新しいが断片的だった」(45%、25%、17%)であった。

物理は基礎からの積み重ねが大事であり、主観的なものさしより、純粋に実力がついたか否かで満足度が測られているように見えるのはもっともな傾向である。

【標準履修モデル】

基礎科目の内容や難易度について肯定的な回答は各年度75%以上である。また専門科目の内容や難易度については(82%、75%、92%)であり、こちらも多くの学生が肯定的にとらえている。教育目標と履修モデルについて合致していたかについては肯定的な回答が(64%、75%、83%)と増加傾向にあるが、そもそも履修案内を参照せずに回答するケースが多いと予想される。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」、「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対しては、どの年度もそう思う者とそう思わない者がだいたい半分ずついる。また「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」という要望に対し、肯定的な回答は(18%、25%、58%)であり、今後の動向を注視したい。「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対しては、肯定的な回答が(27%、50%、42%)あるものの、具体的な要望は人それぞれで対応は難しそうである。

【成績評価】

成績評価の方法が適切かについては、否定的な回答が(0%、75%、25%)ある。原因は不明であるが、点数で評価する以上、少なくともレポート・定期試験において、同じ間違いでも学生により減点の度合が違うようなケースが生じないように注意しなければなるまい。

【授業改革】

授業科目数と内容が適切かについては、足りないという回答が(9%、25%、25%)あった。受講者数の少ない授業科目もあり、単純に科目数を増やすのは現実的ではないが、内容の不足は、各授業の内容を見直すことである程度補えるであろう。また、もし極端に受講者数の少ない授業（基幹科目は除く）があれば、学生のニーズに応じて新規科目に変えていくことも考えられよう。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援が適切かについては肯定的な回答が(100%、100%、75%)と良好であるが、否定的な回答が出始めているのも事実である。原因は不明であるが、面談、教職カルテ等、適切な対応が要求される場面も増えてきており、注意を要する。

【自由意見】

意見がないのが常であるが、平成 24 年度に、地方国立ならではの特長についての意見が寄せられた。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

自由意見欄で述べられているように、「地方国立ならではの教育方針、コミュニケーションの密度、風土が活かされている」とすれば大変喜ばしいことである。長きにわたり、好奇心旺盛かつ吸収力豊かな学生が教員と密に相互作用を繰り返してきた成果であろう。一方で、距離が近すぎて教員の側に甘えが生じ、「実力がつく」手助けを怠ったり、「成績評価の方法が適切でない」と指摘されることのないよう努める必要がある。また、予定されている改組が、カリキュラムや人員の削減を通じて、これまでに築き上げてきた絶妙な学生・教員の距離感を壊すことのないよう願う次第である。

化学コース

平成 23-25 年度の 3 年間のアンケート結果を比較・検討した。各年度の回答率は、H23:100% (14/14), H24 : 94% (15/16), H25 : 24/21 (114%) であった。

以下で各年度のパーセントを (23 年度, 24 年度, 25 年度) で表すことにする。

【全般的な質問】

“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の1位と2位は、3年間を通じて「友人との出会い」(86%, 80%, 58%), 「研究室での卒研やゼミ」(79%, 67%, 46%)であり、研究室での研究活動が充実していることを反映する結果といえる。また、「授業」(29%, 27%, 21%)は、減少傾向にあるが20%以上であった。また、“高知大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち、「授業」は36%, 13%, 42%となっており、年度ごとにばらつきはあるものの、恒常的に30%以上はあるように思われる。授業アンケートやFDなど授業改善に向けたより一層の努力が求められる。また、注意を要す

る傾向として、「先生とのトラブル」(14%, 13%, 7%)に加え、「友人とのトラブル」(0%, 20%, 4%)も総じて増加傾向にあるように思われる。人間関係をうまく構築できない学生が増加しつつあり、アドバイザー・教員制度等を通じたコミュニケーション作りなど、孤立化を防ぐ対策が急務と思われる。

“**教育研究施設(学習環境)**”についての満足度は、満足とほぼ満足を合わせると93%, 93%, 79%であった。H25年度に10%以上減少していることは気がかりであるが、学習環境は十分に整っていると考えられる。“**高知大学の就職支援活動**”については、「満足できた」と「満足できなかった」の回答が、43%/36%, 60%/20%, 51%/41%であった。ここ数年の厳しい就職戦線を反映しての結果と思われるが、様々な就職支援活動への低い出席状況を考え合わせると、一部学生の他力本願的な就職活動にも問題があると思われる。“**ボランティア活動への参加**”について、「ある」(21%, 53%, 13%)は、数値的にはそれほど高いとは言えない。化学コースの場合、演習・実験などに費やされる時間が多く、ボランティア活動に時間を割く余裕がないのかもしれない。

【転学・点学科・転コース】

“**転学・点学科・転コースの申請**”について、いずれの年度も申請はなかった。

【受講科目の感想】

“**満足できた授業**”の数は40以上(21%, 20%, 17%), 30-40(0%, 7%, 29%), 20-30(29%, 40%, 13%), 10-20(21%, 27%, 33%), 10以下(29%, 7%, 8%)となっている。年度によってばらつきがあるが、年度を経るごとに満足できた授業の数が増加傾向にある。“**満足した理由**”については、「親切で丁寧な授業であった」(57%, 73%, 67%), 「専門分野の実力がついた」(43%, 53%, 58%), 「教員の熱意が感じられた」(21%, 20%, 33%)となっており、教員の教育力向上が認められる。“**満足できなかった授業**”の数は、40以上(29%, 0%, 0%), 30-40(7%, 0%, 13%), 20-30(14%, 0%, 20%), 10-20(0%, 40%, 13%), 10以下(50%, 60%, 54%)となっている。“**満足しなかった理由**”のうち「不親切でわかり難い授業」(57%, 73%, 58%), 「一方的な押し付け授業だった」(50%, 47%, 38%), 「実力がつかなかった」(43%, 33%, 33%)などとなっており、さらなる改善が求められる。

【標準履修モデル】

“**基礎科目および専門科目の内容や難易度**”について、いずれも肯定的な回答が、毎年80%を超えている。“**教育目標と履修モデルについて合致していたか**”についても、肯定的な回答(78%, 87%, 83%)が得られている。

【専門科目への要望】

“**より高度な授業内容を実施してほしい**”という要望に対して、より高度な授業を積極的に望む回答をした人は21%, 0%, 13%であった。また“**難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい**”という要望に対して、否定定的な人は78%, 74%, 75%であり、全体的に現状の授業レベルを望む人が多いようである。“**実験実習の時間を増やしてほしい**”や“**社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい**”という要望に対して、それぞれ希望する人は72%, 60%, 54%や57%, 53%, 15%であり、コミュニケーション能力の向上など具体的な要望に関する記述が多くあった。しかし、いず

れも減少傾向にある。

【成績評価】

“成績評価”については、肯定的な回答が(86%, 87%, 92%)と若干減少しており、各授業で成績評価の明確な基準を学生に伝えることが重要と思われる。

【授業改革】

“授業科目数と内容の適切さ”については、肯定的な回答(93%, 100%, 79%)が大勢を占めていた。否定的回答の中で多かったのが、物理化学系授業が少ないというものであった。

【アドバイザー教員制度】

“アドバイザー教員制度”については、肯定的な回答が 96%, 87%, 88%であり、多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようである。

【自由意見】

授業等について、いくつかの自由意見が寄せられた。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

ここ数年来、教員の FD および授業アンケートやピア・サポートの実施に加え、老朽化した学生実験室の改修工事などソフト&ハードの両面で教育環境の改善がなされており、一定の効果が得られているように思われる。特に授業のレベルや進め方について、「親切で丁寧な授業であった」、「専門分野の実力がついた」、「教員の熱意が感じられた」など肯定的な回答が大勢を占めており、研究室での卒論やゼミに対する満足度も高い。中には、さらに物理化学系授業の充実を望む声も寄せられている。一方で授業について「不親切でわかり難い授業」、「一方的な押し付け授業だった」、「実力がつかなかった」と否定的な回答を寄せる学生も存在しており、二極化が進んでいるように思われる。これらを総合的に判断すると学生の勉学意欲を高め、学習習慣を身に付けさせることで、学力のボトムアップを図るとともに、現状の授業レベルを維持しながら、深淵な知識を獲得できる授業を展開し、より高度なレベルをめざす学生の要望にこたえる工夫も必要である。また、新たな傾向として先生のみならず友人との人間関係に悩む学生が増えており、大学生活に適応出来ず孤立化しがちな学生を早期に発見し、救済する支援システムの構築が急務である。

生物科学コース

回収

卒業生 60 名中、39 名から回収できた。回収率は 65%であった。

【全般的な質問】

「高知大学での勉学や生活で満足できたものを下記より選んでください。」

友人との出会いが 79%であり、おおむね満足すべく人間関係のなかで学生生活を送ったと判断できる。H24 の 92%に比較しやや低めにでているが、高度に主観的な設問であり、8割から 9割をもってよしとすべきだろう。研究室での卒論やゼミの満足度は 77%と高いも

の、先生との出会いは約半数（49%）の学生しか満足をしていない。これはやや矛盾を孕んだ数字と思われるが、当該コースの学生数が多く、教員と親密に接する機会が相対的に低いことに原因があるのかも知れない。H24 の前者での満足度は 68%、後者での満足度は 66%であった。授業での満足度は 23%と高くはなく、かつ H24 の 42%に比較しても低い。両年度を通じ、開設科目および担当教員にみるべき変更はないので、学生側の授業の受け止め方に変化が生じている可能性がある。

「高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを下記より選んでください。」

研究室での卒研やゼミ、先生とのトラブルおよび友人とのトラブルにおいて満足できなかった学生は各 1 名であり、ゼロには越したことはないが、問題にすべき数字とは考えられない。H24 はそれぞれ 3 名と 2 名であった。卒論とゼミにおいて 1 名であったことは、多数の卒論生を抱える特性を考慮すれば、教員の努力の結果と素直に評価すべきだろう（H24 は 3 名）。授業に満足していない学生が 15 名（38% ; H24 は 37%）いたが、学生側の授業への取組みがこのアンケートでは不明であり、この数値の評価は困難である。

「教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。」

満足とほぼ満足で 92%を占めた。施設面ではほぼ学生の要求を満たしていると判断できる。H23 は 81%であった。

「高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。」

満足をしていない学生が少なからず存在する（23%）。教員が直接的に就職活動と関わる機会はそれほど多くないので、不満の原因はわからない。H23 では 13%であり、不満の学生が増加する傾向があるが、学生をとりまく社会的状況の変化が影響している可能性も考慮に入れる必要があるかもしれない。

「在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。」

ほぼ 4 名に 1 名が参加をしている。これは H23 とほぼ同様であった。

【転学部、転学科および転コース】

あなたは転学部・転学科・転コースの申請をしたことがありますか。

回答者全員が移籍を申請していない。

【受講科目の感想】

「あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義、実験、演習、セミナー）の印象をお聞きします。満足できた授業の数はおよそいくつでしたか。」

20 から 40 で 60%の学生を占め、概ね肯定的と受け止められる。H24 は 52%であった。

「満足した理由を下記より選んでください。」

理由としては、専門性（49%）、熱意（44%）、親切（41%）の順になった。H24 では専門性（61%）、親切（53%）、熱意（50%）であった。教員サイドとしては専門性に H24 同様に 6 割程度の数字が欲しいところである。

「理学部開設授業（講義、実験、演習、セミナー）のうち、満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。」

20 以下が 84%を占め、概ね肯定的と受け止められる。H24 は 79%であり、傾向としては同一と考えられる。

「満足しなかった理由を下記より選んでください。（複数回答可）」

「不親切」が 58%、「一方的」が 46%、「実力がつかなかった」が 38%の順であった。H24 では、「教材」が 47%、「不親切」が 42%、「一方的」と「実力がつかなかった」がともに 32%であった。H25 では「教材」が 15%であったので、講義で使用する教材に関しては、改善の効果が出ているようである。

【標準履修モデル】

「基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか。」

配置されていた、おおむね配置されていたとの回答で 100%をしめ、配置に不満はないようである。H24 は 87%であった。

「専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか。」

配置されていた、おおむね配置されていたとの回答で 100%をしめ、配置に不満はないようである。H24 は 77%であった。

「各教育コースは独自の教育目標を掲げています（履修案内等を参照してください）。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。」

あまり合致していなかったとの回答が 4 名からあった。学生の具体的な判断材料が不明であるが、より合致させるべく努力する必要があるだろう。H24 は 6 名であった。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。」

概ねそのとおりであるが 62%を占めた。学生の学力と学習態度にバラツキがあるので、一概に高度化ははかれないが、学生の反応を確認しながら徐々に高度な内容を含めることを検討すべきだろう。H24 は 73%であった。

「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします」

余りそう思わないが過半（75%）を占め、概ね学生の要求水準に添った授業がなされていると判断される。H24 も同様（67%）な数字であった。

「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。」

増加をもとめる回答が 84%を占めた。H24 でも 79%であった。教員数と学生数のバランスもあり、現状では対応は困難である。野外での安全への気配りも必要であり、大人数での野外活動は安易には導入できない。

「社会に出て役立つことを授業に増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。」

役立つ授業を要望する回答が 59%を占めた。H24 では 44%であった。「理工学部」への改組によって、この方面での不満は解消されると思われる。

「A あるいは B を選択した人にお聞きします。社会に出て役に立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください」

マナー、常識、知識・技能や考え方・思考能力と知識・自ら考える内容のものを増やす・必要な能力が身につく、論理的思考の獲得・プレゼン、話し合う能力などの回答があった。マナーや常識は学生生活の日常において身につけるべきことであり、当該コースとしては対応をとりにくい。その他の要望事項は主として卒業研究を通じて獲得すべき能力である。卒業研究において学生の自主性を尊ぶべきは理屈としてはその通りであるが、実際の現場

では困難な課題である。

【成績評価】

「これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか。」

適性と概ね適性との回答が 98%を占め、概ね妥当な成績評価がなされていると判断される。

【授業改革】

「理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思われませんか。」

適切と概ね適切との回答が 92%を占めた。

「CあるいはDを選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思いますか。具体的に書いてください」

「数学」との回答があったが、十分な数の数学関連の授業が開講されていると思われる。

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか」

87%の学生が適切・概ね適切と回答している。コース分属の学生数が多いので、あまりマンツーマンの対応ができず、一部学生の不満となっているのかも知れない。

「理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください。」

シャワーをつけてほしい、仮眠室がほしい、トイレの場所が遠い、研究室の扉の隙間風を何とかしてほしいなどの施設面の要求は当該コースとしては対応しかねる。「教養科目での幅広い教育という点で良いものがあった」あるいは「充実した有意義な大学生活であった」のように肯定的な意見もあるが、一方では教職採用試験や社会にでて役立つ教育を求める声もある。過度の「就職予備校化」は学問の場としては慎むべきであり、学生の自学自習に期待したいが、実践的な内容を授業に含めていく必要があるのかもしれない。

地球科学コース

平成 25 年度は卒業生数 14 名中 8 名（回収率 57%）からアンケートが回収された。卒業生の実数も少なく、回収率も低かったことから、今回のデータは過去のデータと詳細に比較するには十分であるとは思えない。したがって、目立つポイントのみについて記す。

【全般的な質問】

高知大学における勉学や生活で満足できるものに対する回答としては、「友人との出会い」「研究室での卒研やゼミ」「先生との出会い」が高い傾向は例年通りであるが、「親からの自立」が今回、3 番目に入っている。満足できなかったものに対する回答数（複数回答）自体が少なく、おおむね不満の少ない結果となっている。教育研究施設（学習環境）や就職支援活動についても、今回はおおむね満足していることがわかる。このあたりについては、学生数が教員数に対して少ないために、ていねいな指導ができていていることを反映しているのかもしれない。

ボランティア活動に関わった学生が居なかったのはやや気になる。

【転学部・転学科】

申請者は 0 であった。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は 30-40 前後と回答する者と 10-20 前後と回答する者とに分かれた。不満を残した授業数は全員が 10-20 科目、あるいは 10 科目以下となっており、比較的不満は少ないようである。

【標準履修モデル】

基礎科目・専門科目ともに、授業内容や難易度については 8 名中 7 名が肯定的な回答をしている。教育目標と標準履修モデルの合致度については、「合致していた」または「概ね合致していた」との回答が 8 名中 6 名であった。

【専門科目への要望】

「より高度な内容」を求める回答は「難しすぎるのでレベルを下げしてほしい」という回答よりも多い。「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」との要望は平成 23 年度・平成 24 年度ともに 9 割前後と高かったが、今回は 8 名中 4 名が「あまりそう思わない」と回答している。

「社会に出て役立つことを授業に増やしてほしい」かどうか、という点については、8 名中 5 名が「あまりそう思わない」と回答しており、地球科学コースに在籍する学生の理学的な志向性の一端が伺える。

【成績評価】

成績評価が「適切」または「概ね適切」と答えた学生は回答者 7 名中 6 名であった。

【授業改革】

8 名中 7 名が、「適切」または「おおむね適切」と回答している。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援は、回答者全員が「適切」と回答している。

【自由記述】

回答者が少ないこともあり、個別記述は、レポートや課題に関する指導についての 1 件だけであった。添削や返却を含めて次につながる指導をしてほしいという指摘であり、われわれ教員はていねいな対応を心がけていきたい。

情報科学コース

平成 25 年度 24 名の卒業生数で回答は 22 名、回答率は 73% である。

【全般的な質問】

勉学や生活で「満足できたもの」は、回答の多い順に「研究室での卒研やゼミ」86%、「先生との出会い」68%、「友人との出会い」64%、「課外活動」45%、「授業」36%、「親からの自立」23%、「その他」5% である。卒研やゼミ、出会いの満足度が 60% を超えていることから教員と学生との人間関係が大変良好であると推察される。

これは、「満足できなかったもの」への回答順で「授業」32%、「課外活動」23%、「親からの自立」9%、「研究室での卒研やゼミ」5% と、研究室や教員や友人とのトラブルの不満が大変少ないことから推察される。

「教育研究施設(学習環境)への満足」は、回答の多い順に「ほぼ満足できた」50%、「満足できた」36%、「満足できなかった」9%、「あまり満足できなかった」5%である。アンケートの 86%以上が「満足」とあったことから、本コースが有効な教育施設拡充ができたと推察される。

「就職支援活動は満足か」は、アンケートの 73%が満足とのことで、企業等からの推薦などに尽力した情報科学コース教員の成果があがっていると思われる。なお、「満足できない」との回答もみられるが詳細は不明である。

「公認・非公認のボランティア活動への参加」は、「ない」82%となっており、学生のほとんどが参加していない。

【転学部、転学科および転コース】

該当する学生がいないため不明。

【受講科目の感想】

以下では、情報科学コースで顕著な点を分析する。

受講科目の「満足した理由」は、回答の多い順に「親切で丁寧な授業であった」59%、「専門分野の実力がついた」55%、「教員の熱意が感じられた」55%、「教材を工夫していた」27%、「授業が一方的でなかった」14%、「授業内容が斬新だった」9%である。ほとんどの情報科学コース教員がていねいに、熱意を持って専門教育をしていると推察される。

【標準履修モデル】

「基礎科目は、内容・難易度で適切に配置しているか」は、回答の多い順に「概ね配置」55%、「配置」35%、「余り配置されていない」5%、「配置されていない」5%である。アンケートの 90%が基礎科目の難易度や配置は適切と回答している。

専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか」は、回答の多い順に「概ね配置されていた」64%、「配置されていた」36%である。アンケートの 100%で専門科目の難易度や配置は適切と回答している。

「教育目標と標準履修モデルとの合致」は、回答の多い順に「概ね合致」68%、「合致」23%、「あまり合致していない」9%である。アンケートの 91%が標準履修モデルが適切と回答している。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容の実施への意見」は、回答の多い順に「余りそう思わない」41%、「概ねそのとおり」32%、「全くそのとおり」27%。アンケートの 59%が実施を、41%がそうではないと 2 分される意見である。また、「社会に出て役立つことを授業の増加」では、回答の多い順に「余りそう思わない」50%、「全くそのとおり」23%、「概ねそのとおり」18%、「全く思わない」2%となっており、ここでも 50%がそう思わない、41%がそう思うと意見が分かれている。

以上の2つは、「より高度な内容」や「社会に役立つ授業」を希望する学生、「今までどおりの内容」を希望する学生、と学生が多様化していると推察される。このように多様な学生に対応するためには、「課題でレベルわけして学ばせる」などの工夫や、選択科目に「社会に出て役立つ授業」を組込む工夫などが考えられる。情報科学コース内でもその方法を議論していきたい。

【成績評価】

「成績評価の方法は適切か」は、回答の多い順に「概ね適切」55%、「適切」27%、「適切でない」18%である。「適切」が 82%もあることから、情報科学コース教員がていねいな成績評価に努力していることが推察される。

【授業改革】

「各学科開設の授業科目数・内容は適切か」は、回答の多い順に「概ね適切」54%、「適切」32%、「不足」14%である。アンケートの 86%が開設授業科目と内容が適切と回答している。

【アドバイザー教員制度】

「アドバイザー教員の指導・支援は適切か」は、回答の多い順に「適切」64%、「概ね適切」32%で、アンケートの 96%が指導や支援が適切であったと回答しており、本コースでうまく機能していることがわかる。

【分析と今後の教育へフィードバック】

アンケート結果と分析から、次のことがわかった。

- 1)教員と学生との人間関係が大変良好である
- 2)教育研究施設(学習環境)も満足するものである。
- 3)就職支援活動では、73%が満足。
- 4)公認・非公認のボランティア活動へは学生のほとんどが参加していない。
- 5)情報科学コース教員によるていねいに、熱意を持った専門教育で満足度高い
- 6)基礎科目の内容・難易度と配置は適切である。
- 7)専門科目の内容・難易度と配置は適切である。
- 8)一部に「より高度な内容」や「社会に役立つ授業」を希望する学生への配慮必要。
- 9)成績評価は適切
- 10)学科開設科目数適切
- 11)アドバイザー教員制度が良好に機能している。

以上のアンケート結果および分析結果から、現状の教員と学生との人間関係、教育施設の拡充、就職支援体制を保ちつつ、また、ていねいに熱意を持った専門教育をさらに充実させる努力に加え、授業への多様なニーズ(高度な内容、社会で役立つ内容)を満たす工夫に努力して、多様な学生の学習欲に応じた教育内容の提供を目指していく。

応用化学コース

平成 23-25 年度の 3 年間のアンケート結果を比較・検討した。各年度の回答率は、H23: 79% (23/29), H24 : 74% (20/27), H25 : 25/30 (83%) であった。

以下で各年度のパーセントを (23 年度, 24 年度, 25 年度) で表すことにする。

【全般的な質問】

“高知大での勉学や生活で満足できたもの”の 1 位と 2 位は、3 年間を通じて「友人との出会い」(83%, 85%, 80%)、「研究室での卒研やゼミ」(52%, 90%, 56%)であり、研究室での研究活動に充実していることを示す結果が得られた。また、「授業」は 39%, 35%, 20%であった。H25 年度に急減しており、一過性の傾向か見守りたい。“高知大での勉学や生活で満足できなかったもの”のうち、「授業」は 22%, 25%, 40%であった。H25 年度に急増しており、その傾向を見極める必要がある。また、例年「課外授業」(30%, 35%, 16%)についても高い数値となっており、期待したような充実感が得られていない様である。

“教育研究施設(学習環境)”についての満足度は、満足とほぼ満足を合わせると 92%, 95%, 88%であり、学習環境は十分に整っていると考えられる。“高知大学の就職支援

活動”については、「満足できた」と「満足できなかった」の回答は 61%/30%、70%/20%、68%/20%となっており、「満足できた」という回答が大きく上回っている。“ボランティア活動への参加”について、「ある」(26%, 20%, 24%)は、数値的にはそれほど高いとは言えない。応用化学コースの場合、特に4年生では卒業研究などに費やされる時間が多く、ボランティア活動に時間を割く余裕がないのかもしれない。

【転学・点学科・転コース】

“転学・点学科・転コースの申請”について、「はい」の回答は0名、2名、0名であり、申請者は希望通り受け入れられた。

【受講科目の感想】

“満足できた授業”の数は40以上(13%, 15%, 4%), 30-40(17%, 25%, 28%), 20-30(26%, 5%, 44%), 10-20(30%, 50%, 20%), 10以下(13%, 5%, 4%)となっている。年度によってばらつきがあるが、全般的に年度を経るごとに満足できた授業の数が増加傾向にある。“満足した理由”については、「専門分野の実力がついた」(57%, 80%, 60%), 「親切で丁寧な授業であった」(65%, 50%, 52%), 「教員の熱意が感じられた」(35%, 35%, 32%)となっており、教員の教育力向上が認められる。“満足できなかった授業”の数は、40以上(9%, 0%, 0%), 30-40(4%, 20%, 0%), 20-30(17%, 0%, 12%), 10-20(26%, 15%, 28%), 10以下(43%, 65%, 60%)となっている。“満足しなかった理由”のうち「不親切でわかり難い授業」(65%, 60%, 36%), 「一方的な押し付け授業だった」(43%, 45%, 16%), 「実力がつかなかった」(26%, 20%, 20%)などとなっており、より一層の努力が求められる。

【標準履修モデル】

“基礎科目および専門科目の内容や難易度”について、肯定的な回答が、それぞれ毎年90%, 80%を超えている。“教育目標と履修モデルについて合致していたか”についても、肯定的な回答(92%, 95%, 96%)が得られている。

【専門科目への要望】

“より高度な授業内容を実施してほしい”という要望に対して、より高度な授業を積極的に望む回答をした人は13%, 25%, 28%であった。また“難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい”という要望に対して、否定定的な人は83%, 95%, 76%であり、全体的に現状の授業レベルを望む人が多いようである。“実験実習の時間を増やしてほしい”や“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”という要望に対して、それぞれ希望する人は60%, 85%, 56%や69%, 40%, 44%であり、コミュニケーション能力の向上など具体的な要望に関する記述が多くあった。

【成績評価】

“成績評価”については、肯定的な回答が83%, 95%, 96%となっており、概ね適切な評価が行われているといえる。

【授業改革】

“授業科目数と内容の適切さ”については、肯定的な回答（96%，85%，96%）が大勢を占めていた。否定的な回答の多くは、物理化学，無機化学，高分子化学系授業の充実を要望する前向きなものであった。

【アドバイザー教員制度】

“アドバイザー教員制度”については、肯定的な回答が 92%，100%，88%であり、多くの学生がアドバイザー教員制度の必要性を感じているようである。

【自由意見】

授業等について、いくつかの自由意見が寄せられた。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

ここ数年来、教育熱心な若い先生方を迎え入れ、老朽化した学生実験室の改修工事が進むなど、教育環境の改善がなされており、一定の効果が得られているように思われる。特に授業のレベルや進め方について、「親切で丁寧な授業であった」、「専門分野の実力がついた」、「教員の熱意が感じられた」など肯定的な回答が大勢を占めており、研究室での卒論やゼミに対する満足度も高い。さらに、授業のレベルアップや高分子化学や物理化学系授業の充実を求める要望も寄せられていた。一方、授業について「不親切でわかり難い授業」、「一方的な押し付け授業だった」、「実力がつかなかった」と否定的な回答を寄せる学生も存在しており、学力の二極化が進んでいるように思われる。成績不振学生については早期に発見し、勉学意欲を高め、学習習慣をしっかりと身に付けさせる早期ケアが必要である。また、現状の授業レベルを維持しながら、高度な知識と応用力を獲得できる授業を展開し、意識の高い学生の要望にこたえる工夫も必要である。

海洋生命・分子工学コース

[25 年度の数字に続いて 24 年度の数字を括弧内に示した]

卒業予定者 37 (35) 名のうち 26 (23) 名から回答を得た。回答率は 79 (66) %である。昨年と比べて 10%以上の上昇であった。

【全般的な質問】 大学で満足したこととしては、「研究室での卒研やゼミ」が 65% (78)、「友人との出会い」が 81% (83) と上位となっていた。一方、満足できなかったこととして 24 年度は、4 年度は課外活動 33%，親からの自立 17%が上位を占めた。これに対して、25 年度は課外活動 27%，k 課外活動 19%，親からの自立 15%となり、同様の傾向となった。教育研究施設（学習環境）については 25 年度は「満足できた」か「ほぼ満足できた」が合計で 77%と高い数字となった。高知大学の設備の充実が、学生たちに支持されている結果である。また一方で、就職支援に関しては 25 年度は「満足できた」か「ほぼ満足できた」が、合計で 65%ととなっている。

【理学部に関する質問】

転学部・転学科・転コースを希望した者は 26 (23) 名中 1 (0) 名であり、希望は受け入れられたとのことである。満足できた授業の数については 24 年度が「10～20」が 33%と最も多かったのに対して、25 年度は「10～20」が 35%、「20～30」が 31%となり、「20～30」

の増加がみられる。この分布は、概ね他コースと同様であった。満足した理由については「専門分野の実力がついた」が 69%、「親切で丁寧」が 50%と、他のコースの傾向とほぼ同様であった。満足できなかった授業の数については、「10～20」が 35% (39)、「10 以下」が 50 (48) と、昨年と同様に大半を占めた。満足できなかった理由については「不親切でわかりにくい」が 58%となり、上位を占めた。

【標準履修モデル】 基礎科目については「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が 35% (30) と 65% (61) であり、肯定的な回答結果であった。専門科目についても「適切に配置されていた」「概ね適切に配置されていた」と答えた学生が 31% (22) と 65% (61) であり、同様な傾向の回答であった。また、コースの教育目標と標準履修モデルが合致していたかとの問いには、「合致していた」「概ね合致していた」が 19% (13) と 77% (74) であり、十分な結果である。「より高度な授業をしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」が 19% (17) と 46% (52) であり、今後の授業のレベルの検討が示唆される。「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」という要望は、「あまりそう思わない」が 58%、「全く思わない」が 23%となり、レベルは適当と判断できる。「実験実習の時間を増やしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおり」あるいは「概ねそのとおり」と答えた学生は、31% (26) と 31% (52) であった。「社会で役立つことを授業に増やしてほしい」という要望に対する意見としては、「全くそのとおりである」と「概ねそのとおりである」が 35% (22) と 35% (48) であり、社会で役立つ応用的な授業の増加が望まれている。

【成績評価・授業改革・アドバイザー制度】

成績評価の方法については、「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は、23% (26) と 50% (61) であり、学生の自己評価と一致する、昨年と同様の傾向であった。理学部が開設している授業科目数と内容に関しては、「適切である」「概ね適切である」答えた学生は、35% (26) と 65% (70) であった。アドバイザー教員の指導・支援については「適切であった」「概ね適切であった」と答えた学生は、58% (61) と 31% (35) であり、この制度が存続する妥当性を支持している結果と考えられる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

、研究室での卒研やゼミと友人との出会いが、大学で満足したこととしてのアンケートで上位を占めた。この傾向を維持するためにも、積極的に卒論生を研究室に受け入れて、充実した卒業実験の実施が望まれる。理学部に関するアンケートでは、授業の改善に対する教員の自助努力が必要とされる。標準履修モデルでは、基礎科目と専門科目は肯定的である。今後の授業の質の向上が期待されており、この点を中心として改善に取り組む必要があると考えられる。さらに社会で役立つ授業が期待されている。このような要望に沿った授業内容の改革が求められる。アドバイザー制度は順調に機能している様子であり、この制度の順調な継続が望まれる。

Ⅱ. 集計結果

【所属】

1. あなたの所属するコースを下記より選んでください。
 - A. 数学（数理科学）コース
 - B. 物理科学（物質基礎化学）コース
 - C. 化学コース
 - D. 生物科学コース
 - E. 地球科学（地球史環境科学）コース
 - F. 情報科学コース
 - G. 応用化学コース（物質変換科学）
 - H. 海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース
 - I. 災害科学（防災科学）コース

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	計
卒業者数	51	24	21	60	14	24	30	37	13	274
回収件数	43	12	24	39	8	22	25	26	13	212
回収率(%)	84%	50%	114%	65%	57%	92%	83%	70%	100%	77%

【全般的な質問】

2. 高知大学での勉学や生活で満足できたものを下記より選んでください。（複数回答可）
 - A. 授業
 - B. 研究室での卒研やゼミ
 - C. 先生との出会い
 - D. 友人との出会い
 - E. 課外活動
 - F. 親からの自立
 - G. その他（ ）

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D	E	F	G
数学（数理科学）コース	20(47)	22(51)	19(44)	30(70)	14(33)	16(37)	0(0)
物理科学（物質基礎化学）コース	4(33)	7(58)	5(42)	7(58)	4(33)	3(25)	1(8)
化学コース	5(21)	11(46)	7(29)	14(58)	8(33)	7(29)	0(0)
生物科学コース	9(23)	30(77)	19(49)	31(79)	18(46)	7(18)	2(5)
地球科学(地球史環境科学)コース	2(25)	5(63)	3(38)	6(75)	2(25)	4(50)	0(0)
情報科学コース	8(36)	19(86)	15(68)	14(64)	10(45)	5(23)	1(5)
応用化学（物質変換科学）コース	5(20)	14(56)	11(44)	20(80)	14(56)	5(20)	0(0)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	8(31)	17(65)	8(31)	21(81)	10(38)	6(23)	0(0)
災害科学(防災科学)コース	4(31)	13(100)	9(69)	11(85)	6(46)	4(31)	0(0)
計	65(11)	138(23)	96(16)	154(26)	86(14)	57(9)	4(1)

情報科学コース

- ・ アルバイト
- ・ 自由時間
- ・ 寮生活

3. 高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 授業 B. 研究室での卒研やゼミ C. 先生とのトラブル D. 友人とのトラブル
E. 課外活動 F. 親からの自立 G. その他 ()

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D	E	F	G
数学(数理科学)コース	16(37)	4(9)	1(2)	4(9)	16(37)	1(2)	4(9)
物理科学(物質基礎化学)コース	3(25)	0(0)	0(0)	1(8)	3(25)	3(25)	2(17)
化学コース	10(42)	5(21)	3(13)	1(4)	4(17)	0(0)	1(4)
生物科学コース	15(38)	1(3)	1(3)	1(3)	8(21)	12(31)	1(3)
地球科学(地球史環境科学)コース	1(13)	0(0)	0(0)	0(0)	2(25)	1(13)	0(0)
情報科学コース	7(32)	1(5)	0(0)	0(0)	5(23)	2(9)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	10(40)	3(12)	0(0)	1(4)	3(12)	4(16)	0(0)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	7(27)	3(12)	0(0)	0(0)	5(19)	4(15)	4(15)
災害科学(防災科学)コース	6(46)	0(0)	0(0)	0(0)	2(15)	1(8)	0(0)
計	75(38)	17(9)	5(3)	8(4)	48(25)	28(15)	12(6)

海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ なし/特になし

数学(数理科学)コース

- ・ アルバイトの稼ぎ

4. 教育研究施設(学習環境)は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	11(26)	29(67)	2(5)	1(2)
物理科学(物質基礎化学)コース	3(25)	8(67)	1(8)	0(0)
化学コース	5(21)	14(58)	4(17)	1(4)
生物科学コース	10(26)	26(66)	3(8)	0(0)

地球科学（地球史環境科学）コース	2(25)	6(75)	0(0)	0(0)
情報科学コース	8(36)	11(50)	1(5)	2(9)
応用化学(物質変換科学)コース	8(32)	14(56)	3(12)	0(0)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	3(12)	17(65)	6(23)	0(0)
災害科学（防災科学）コース	7(54)	6(46)	0(0)	0(0)
計	57(27)	131(62)	20(9)	4(2)

5. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。
 A. 満足できた B. ほぼ満足できた
 C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	10(23)	24(56)	7(16)	2(5)
物理科学(物質基礎化学)コース	1(9)	4(33)	4(33)	2(17)
化学コース	3(13)	9(38)	8(33)	2(8)
生物科学コース	7(18)	17(44)	6(15)	9(23)
地球科学（地球史環境科学）コース	2(25)	4(50)	1(13)	0(0)
情報科学コース	5(23)	11(50)	2(9)	3(14)
応用化学(物質変換科学)コース	9(36)	8(32)	3(12)	2(8)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	4(15)	13(50)	7(27)	2(8)
災害科学（防災科学）コース	5(38)	5(38)	2(16)	1(8)
計	46(22)	93(44)	39(18)	23(11)

6. 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。
 A. ある B. ない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A. ある	B. ない
数学（数理科学）コース	19(44)	24(56)
物理科学(物質基礎化学)コース	1(8)	11(92)

化学コース	3(13)	21(87)
生物科学コース	10(26)	29(74)
地球科学（地球史環境科学）コース	0(0)	8(100)
情報科学コース	4(18)	18(82)
応用化学(物質変換科学)コース	6(24)	19(76)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	8(31)	18(69)
災害科学（防災科学）コース	6(46)	7(54)
計	57(27)	155(73)

7. 「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	13(68)	4(22)	1(5)	1(5)
物理科学(物質基礎化学)コース	1(50)	1(50)	0(0)	0(0)
化学コース	2(67)	1(33)	0(0)	0(0)
生物科学コース	4(40)	5(50)	1(10)	0(0)
地球科学（地球史環境科学）コース	-	-	-	-
情報科学コース	3(75)	1(25)	0(0)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	3(50)	3(50)	0(0)	0(0)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	5(63)	3(37)	0(0)	0(0)
災害科学（防災科学）コース	5(83)	1(17)	0(0)	0(0)
計	36(62)	19(33)	2(3)	1(2)

続いて理学部に関する質問です。

【転学部、転学科および転コース】

8. あなたは転学部・転学科・転コースの申請をしたことがありますか。

- A. はい B. いいえ

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A. はい	B. いいえ
数学 (数理科学) コース	1(2)	41(95)
物理科学 (物質基礎化学) コース	0(0)	12(100)
化学コース	0(0)	23(96)
生物科学コース	0(0)	39(100)
地球科学 (地球史環境科学) コース	0(0)	8(100)
情報科学コース	0(0)	22(100)
応用化学 (物質変換科学) コース	0(0)	25(100)
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学) コース	1(4)	25(96)
災害科学 (防災科学) コース	0(0)	13(100)
計	2(1)	208(98)

9. あると答えた方だけに質問します。申請は受け入れられましたか。

A. はい B. いいえ

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A. ある	B. ない
数学 (数理科学) コース	1(100)	0(0)
物理科学 (物質基礎化学) コース	-	-
化学コース	-	-
生物科学コース	-	-
地球科学 (地球史環境科学) コース	-	-
情報科学コース	-	-
応用化学 (物質変換科学) コース	-	-
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学) コース	1(100)	0(0)
災害科学 (防災科学) コース	-	-
計	2(100)	0(0)

【受講科目の感想】

10. あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業 (講義, 実験, 演習, セミナー) の印象をお聞きします。満足できた授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40 以上 B. 30-40 C. 20-30 D. 10-20 E. 10 以下

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A. 40 以上	B. 30-40	C. 20-30	D. 10-20	E. 10 以下
数学 (数理科学) コース	5(12)	4(9)	19(44)	9(21)	6(14)
物理科学 (物質基礎化学) コース	2(17)	3(25)	3(25)	4(33)	0(0)
化学コース	4(17)	7(29)	3(13)	8(33)	2(8)
生物科学コース	5(13)	8(21)	10(26)	12(30)	4(10)
地球科学 (地球史環境科学) コース	0(0)	4(50)	0(0)	3(37)	1(13)
情報科学コース	2(9)	4(18)	5(23)	7(32)	4(18)
応用化学 (物質変換科学) コース	1(4)	7(28)	11(44)	5(20)	1(4)
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学) コース	2(8)	3(11)	8(31)	9(35)	4(15)
災害科学 (防災科学) コース	2(15)	5(38)	4(31)	2(15)	0(0)
計	23(11)	45(21)	63(30)	59(28)	22(10)

11. 満足した理由を下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 専門分野の実力がついた B. 親切で丁寧な授業であった C. 教材を工夫していた
D. 教員の熱意が感じられた E. 授業が一方向的でなかった F. 授業内容が斬新だった
G. その他 (具体的に書いてください)

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D	E	F	G
数学 (数理科学) コース	20(47)	23(53)	4(9)	13(30)	6(14)	7(16)	1(2)
物理科学 (物質基礎化学) コース	9(75)	7(58)	0(0)	5(42)	3(25)	1(8)	0(0)
化学コース	14(58)	16(67)	1(4)	8(33)	3(13)	4(17)	0(0)
生物科学コース	19(49)	16(41)	7(18)	17(44)	8(21)	7(18)	0(0)
地球科学 (地球史環境科学) コース	4(50)	5(63)	0(0)	4(50)	2(25)	2(25)	0(0)
情報科学コース	12(55)	13(59)	6(27)	11(50)	3(14)	2(9)	0(0)
応用化学 (物質変換科学) コース	15(60)	13(52)	0(0)	8(32)	4(16)	3(12)	0(0)
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学) コース	18(69)	13(50)	2(8)	15(58)	5(19)	5(19)	0(0)
災害科学 (防災科学) コース	10(77)	9(69)	8(62)	5(38)	0(0)	1(8)	0(0)
計	121(28)	115(28)	28(7)	86(21)	34(8)	32(8)	1(0)

12. 理学部開設授業（講義，実験，演習，セミナー）のうち，満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。

A. 40 以上 B. 30-40 C. 20-30 D. 10-20 E. 10 以下

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A. 40 以上	B. 30-40	C. 20-30	D. 10-20	E. 10 以下
数学（数理科学）コース	0(0)	3(7)	11(26)	13(30)	16(37)
物理科学(物質基礎化学)コース	0(0)	0(0)	1(8)	2(17)	9(75)
化学コース	0(0)	3(13)	5(20)	3(13)	13(54)
生物科学コース	0(0)	3(8)	3(8)	16(41)	17(43)
地球科学（地球史環境科学）コース	0(0)	0(0)	0(0)	3(37)	5(63)
情報科学コース	2(9)	2(9)	1(5)	5(22)	12(55)
応用化学(物質変換科学)コース	0(0)	0(0)	3(12)	7(28)	15(60)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	1(4)	0(0)	3(11)	9(35)	13(50)
災害科学（防災科学）コース	0(0)	1(8)	1(8)	3(22)	8(62)
計	3(1)	12(6)	28(13)	61(29)	108(51)

13. 満足しなかった理由を下記より選んでください。（複数回答可）

- A. 実力がつかなかった
 B. 不親切でわかり難い授業だった
 C. 教材の工夫が見られなかった
 D. 教員の熱意が感じられなかった
 E. 一方的な押し付け授業だった
 F. 内容が古すぎた
 G. 内容は新しいが断片的だった
 H. その他（具体的に書いてください）

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D	E	F	G	G
数学（数理科学）コース	20(47)	16(37)	2(5)	5(12)	15(35)	1(2)	4(9)	1(2)
物理科学(物質基礎化学)コース	8(67)	4(33)	2(17)	1(8)	4(33)	0(0)	2(17)	0(0)
化学コース	8(33)	14(58)	6(25)	4(17)	9(38)	3(13)	4(17)	2(8)
生物科学コース	15(38)	21(54)	6(15)	4(10)	18(46)	0(0)	4(10)	0(0)
地球科学（地球史環境科学）コース	0(0)	5(63)	2(25)	3(38)	3(38)	0(0)	3(38)	0(0)
情報科学コース	4(18)	11(50)	1(5)	5(23)	8(36)	4(18)	4(18)	2(9)
応用化学(物質変換科学)コース	5(20)	9(36)	3(12)	4(16)	4(16)	0(0)	6(24)	1(4)
海洋生命・分子工学（生	2(8)	15(58)	4(15)	9(35)	10(38)	0(0)	7(27)	0(0)

体機能物質工学) コース								
災害科学 (防災科学) コース	4(31)	4(31)	3(23)	3(23)	8(62)	0(0)	1(8)	0(0)
計	66(18)	99(27)	29(8)	38(11)	79(22)	8(2)	35(10)	6(2)

情報科学コース

- ・ 苦手なことだったので、自主的に付加しようと思えなかった(自分が頑張らなかった)。
- ・ 単位のことばかり言う授業があった。

海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ 科目数が少なかった。

【標準履修モデル】

14. 基礎科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. 余り配置されていない D. 配置されていない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学 (数理科学) コース	14(33)	27(63)	1(2)	1(2)
物理科学(物質基礎化学)コース	6(50)	5(42)	1(8)	0(0)
化学コース	9(38)	11(46)	3(13)	0(0)
生物科学コース	15(38)	24(62)	0(0)	0(0)
地球科学 (地球史環境科学) コース	0(0)	7(87)	1(13)	0(0)
情報科学コース	8(35)	12(55)	1(5)	1(5)
応用化学(物質変換科学)コース	11(44)	12(48)	2(8)	0(0)
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学) コース	9(35)	17(65)	0(0)	0(0)
災害科学 (防災科学) コース	5(38)	7(54)	1(8)	0(0)
計	76(36)	122(58)	10(5)	2(1)

15. 専門科目は、授業内容や難易度において適切に配置されていましたか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. 余り配置されていない D. 配置されていない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学 (数理科学) コース	9(21)	32(74)	2(5)	0(0)

物理科学(物質基礎化学)コース	4(34)	7(58)	1(8)	0(0)
化学コース	6(25)	14(58)	3(13)	0(0)
生物科学コース	9(23)	30(77)	0(0)	0(0)
地球科学(地球史環境科学)コース	1(12.5)	6(75)	1(12.5)	0(0)
情報科学コース	8(36)	14(64)	0(0)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	10(40)	15(60)	0(0)	0(0)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	8(31)	17(65)	1(4)	0(0)
災害科学(防災科学)コース	5(38)	7(54)	1(8)	0(0)
計	59(28)	142(67)	9(4)	0(0)

16. 各教育コースは独自の教育目標を掲げています(履修案内等を参照してください)。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。
- A. 合致していた B. 概ね合致していた
C. 余り合致していなかった D. 合致していなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	10(23)	30(70)	3(7)	0(0)
物理科学(物質基礎化学)コース	2(17)	8(66)	2(17)	0(0)
化学コース	6(25)	16(67)	1(4)	0(0)
生物科学コース	5(13)	29(74)	4(10)	1(3)
地球科学(地球史環境科学)コース	3(37.5)	3(37.5)	2(25)	0(0)
情報科学コース	5(23)	15(68)	2(9)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	9(36)	15(60)	1(4)	0(0)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	5(19)	20(77)	1(4)	0(0)
災害科学(防災科学)コース	3(23)	10(77)	0(0)	0(0)
計	47(22)	146(69)	16(8)	1(0)

【専門科目への要望】

17. 「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	6(14)	11(26)	24(55)	2(5)
物理科学(物質基礎化学)コース	1(8)	5(42)	6(50)	0(0)
化学コース	3(13)	6(25)	13(54)	2(8)
生物科学コース	3(8)	21(54)	12(30)	3(8)
地球科学(地球史環境科学)コース	0(0)	6(75)	2(25)	0(0)
情報科学コース	6(27)	7(32)	9(41)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	7(28)	10(40)	6(24)	2(8)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	5(19)	12(46)	8(31)	1(4)
災害科学(防災科学)コース	2(15)	6(46)	4(31)	1(8)
計	33(16)	83(39)	84(40)	11(5)

18. 「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	4(9)	18(42)	16(37)	5(12)
物理科学(物質基礎化学)コース	0(0)	7(58)	4(34)	1(8)
化学コース	4(17)	2(8)	15(62)	3(13)
生物科学コース	2(5)	4(10)	29(75)	4(10)
地球科学(地球史環境科学)コース	0(0)	0(0)	8(100)	0(0)
情報科学コース	0(0)	4(18)	14(64)	4(18)
応用化学(物質変換科学)コース	2(8)	4(16)	14(56)	5(20)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	1(4)	4(15)	15(58)	6(23)
災害科学(防災科学)コ	0(0)	2(15)	8(62)	3(23)

ース				
計	13(6)	45(21)	122(58)	31(15)

19. 「実験実習や野外調査の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学 (数理科学) コース	6(14)	14(33)	15(34)	8(19)
物理科学(物質基礎化学) コース	1(8)	4(34)	6(50)	1(8)
化学コース	3(13)	10(41)	7(29)	4(17)
生物科学コース	18(46)	15(38)	5(13)	1(3)
地球科学 (地球史環境科学) コース	2(25)	2(25)	4(50)	0(0)
情報科学コース	6(27)	2(9)	11(50)	3(14)
応用化学(物質変換科学) コース	9(36)	5(20)	10(40)	1(4)
海洋生命・分子工学 (生体機能物質工学) コース	8(31)	8(31)	6(23)	4(15)
災害科学 (防災科学) コース	3(24)	6(46)	2(15)	2(15)
計	56(26)	66(31)	66(31)	24(12)

20. 「社会に出て役立つことを授業に増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きします。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学 (数理科学) コース	10(23)	8(19)	22(51)	3(7)
物理科学(物質基礎化学) コース	2(17)	3(25)	7(58)	0(0)
化学コース	4(17)	2(8)	18(75)	0(0)
生物科学コース	12(31)	11(28)	15(38)	1(3)
地球科学 (地球史環境科学) コース	1(12.5)	1(12.5)	5(62)	1(13)
情報科学コース	5(23)	4(18)	11(50)	2(9)
応用化学(物質変換科学)	8(32)	3(12)	13(52)	1(4)

コース				
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	9(35)	9(35)	6(23)	2(7)
災害科学（防災科学）コース	3(23)	3(23)	4(31)	3(23)
計	54(25)	43(20)	101(48)	13(6)

21. A あるいは B を選択した人にお聞きします。社会に出て役に立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください。

数学(数理科学)コース

- ・社会で実践できる技術や能力
- ・教員になった時の必要な知識や指導法など
- ・グループディスカッションする機会がほしい
- ・PC の使い方
- ・ベンチャービジネス論のような講義を増やしてほしい
- ・交流授業や様々な人と話す機会を設けてほしい

物理科学(物質基礎化学)コース

- ・礼儀やマナーなど
- ・労働基準法の学習
- ・コミュニケーション能力

化学コース

- ・一般的な常識やマナー
- ・ボランティア活動についての学習
- ・対人コミュニケーションスキル
- ・礼儀, マナー
- ・資格取得
- ・PC 技術
- ・お金

生物科学コース

- ・マナー, 常識, 知識
- ・社会的マナー
- ・社会で役立つ知識
- ・社会での利用方法を考える
- ・実験計画書を学生に作らせる
- ・技能や考え方
- ・思考能力と知識
- ・就職活動に役立つこと
- ・自ら考える内容のものを増やす
- ・他の考え方や工夫の仕方を考える授業
- ・教員採用試験の授業がなかった
- ・必要な能力が身につく, 論理的思考の獲得
- ・プレゼン, 話し合う能力
- ・理科の知識を生かせる就職先を意識した授業

地球科学(地球史環境科学)コース

- ・基礎的なレポートの書き方、英語の読み書きのポイントを教えてほしかった

情報科学コース

- ・ 公的な役割を果たす。
- ・ 多くの人とグループになって1つのものをつくること。
- ・ 意見を議論する場所。
- ・ 学生のグループワーク。
- ・ 学外の人と関わりをもつ。
- ・ 実際に企業で使われている技術の学習。
- ・ 社会の常識。
- ・ 主体性、忍耐力。
- ・ 専門分野をどのように就活に活かすか、など。
- ・ 専門の授業は仕事に直結する内容が望ましい。
- ・ PG、SE 等の仕事内容に沿った授業。

応用化学コース(物質変換科学)

- ・ 基本的に社会マナーと知識。
- ・ 人生のキャリアの考え方など、生きていく方針の手助けとなる知識。
- ・ 考え方や物事のこなし方。
- ・ 豆知識や生活に役立てられるもの。
- ・ 分野以外での社会のマナーなどについてあったらいいと思う。
- ・ 社会のマナー(社会人としてのマナー)。
- ・ 実際に物質をつくるプロセスがどうなっているか、解説してもらいたかった。
- ・ 授業の中にグループワークやディスカッションを多く設けて、コミュニケーションの取り方や人前で話す力を養えるようにしてほしい。
- ・ 身のまわりの現象や社会状況などを踏まえて、座学だけでなく、より体験的なものがあればいいと思う。

海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ 社会で様々な人に接する時に、その授業での経験が活かせること。
- ・ 就職して働くときに役立つ専門知識や発表のスキル。
- ・ コミュニケーション能力、ファシリテーション能力。
- ・ 対応力、コミュニケーション。
- ・ 直接使うことのできる知識や技術。
- ・ マナー、言葉づかい等。
- ・ マナー、コミュニケーション。会社員は人の話など。
- ・ 社会における一般の常識。最近のニュースとからめながら授業をしたり。
- ・ 概論的な内容ではなく、より実地的な内容。
- ・ 出店の経営、参加。
- ・ 社会や自然に結びついた授業には興味がわきます。
- ・ 就活で役に立つこと。
- ・ 人前での発表の機会、ディスカッションの場を多くする。
- ・ 他大学のように就職活動に関する授業を受けてみたかった。

災害科学(防災科学)コース

- ・ コミュニケーション能力。
- ・ サイエンティフィックに物事を見る目。

- ・ ロジカルに考えること。
- ・ 一般教養などに政治経済の授業を取り入れたり、タブレットを使用したプレゼン授業など。
- ・ 現場での作業など。
- ・ 物事を考える時や解決していくときの過程を身につけることができること。
- ・ その学習がどのような場所でどのように役立つのか具体的に知り、実践できる力を身につけること。

【成績評価】

22. これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 適切でない授業もあった D. 適切でない授業がたくさんあった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	10(23)	27(63)	6(14)	0(0)
物理科学(物質基礎化学)コース	4(33)	5(42)	3(25)	0(0)
化学コース	6(25)	13(54)	5(21)	0(0)
生物科学コース	19(49)	19(49)	1(2)	0(0)
地球科学(地球史環境科学)コース	2(25)	4(50)	1(13)	0(0)
情報科学コース	6(27)	12(55)	4(18)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	12(48)	12(48)	1(4)	0(0)
海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース	6(23)	13(50)	7(27)	0(0)
災害科学(防災科学)コース	2(15)	8(62)	3(23)	0(0)
計	67(32)	114(53)	31(15)	0(0)

【授業改革】

23. 理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思われませんか。

- A. 適切である B. 概ね適切である
C. 足りない D. 多すぎる

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学(数理科学)コース	14(33)	29(67)	0(0)	0(0)
物理科学(物質基礎化学)コース	3(25)	6(50)	3(25)	0(0)
化学コース	7(29)	15(63)	2(8)	0(0)
生物科学コース	14(36)	22(56)	2(5)	1(3)

地球科学（地球史環境科学）コース	1(12.5)	6(75)	1(12.5)	0(0)
情報科学コース	7(32)	12(54)	3(14)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	10(40)	14(56)	1(4)	0(0)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	9(35)	17(65)	0(0)	0(0)
災害科学（防災科学）コース	3(23)	10(76)	0(0)	0(0)
計	68(32)	131(62)	12(6)	1(0)

24. C あるいは D を選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思いますか。具体的に書いてください。

物理科学(物質基礎化学)コース

- ・必修の授業を増やすべき
- ・数学に関する授業
- ・一般相対論
- ・専門科目及びそれに関する科目の追加
- ・プライマリイ、アドバンス、ジェネラルなどを選択して、その科目をとらないと卒業認定には含まれないとなっているので転科、転学しにくい。(理学部のその他学科で開講科目の上限が 6 単位を増やすべき)

化学コース

- ・量子化学
- ・物理化学
- ・有機金属
- ・量子論(化学)
- ・触媒化学
- ・NμR

生物科学コース

- ・数学
- ・自由に選択できる副専攻の充実

情報科学コース

- ・専門の単位数がもっとあればいいと思います
- ・科目名が出ているのに開講していない授業が多く、それらをやればいいと思う。

応用化学コース(物質変換科学)

- ・教科書で使わなかった範囲をできるだけカバーできる授業。

【アドバイザー教員制度】

25. アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 余り適切でなかった D. 適切でなかった

数字は回答数(括弧内の数字は%)

	A	B	C	D
数学（数理科学）コース	27(63)	13(30)	2(5)	1(2)
物理科学(物質基礎化学)コース	6(50)	3(25)	2(17)	1(8)
化学コース	10(42)	11(46)	3(12)	0(0)
生物科学コース	21(54)	13(33)	3(8)	2(5)
地球科学（地球史環境科学）コース	7(88)	0(0)	0(0)	0(0)
情報科学コース	14(64)	7(32)	0(0)	0(0)
応用化学(物質変換科学)コース	13(52)	9(36)	2(8)	1(4)
海洋生命・分子工学（生体機能物質工学）コース	15(58)	8(31)	3(12)	0(0)
災害科学（防災科学）コース	7(54)	5(38)	1(8)	0(0)
計	120(57)	69(33)	16(8)	5(2)

26. 理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください。

数学(数理科学)コース

- ・卒論発表はスーツのほうが良いのでは？
- ・進路に関して丁寧な指導があった
- ・アドバイザー教員との出会いは大きいものであった
- ・教員と学生の関わりの機会がもっとあると良い
- ・ありがとうございました
- ・教育学部教員の理学部生に対する馬鹿にした発言に腹が立つ
- ・必要単位がわかりにくい。2, 3年の時に説明の場を設けるべき
- ・楽しい4年間を過ごすことができた

物理科学(物質基礎化学)コース

化学コース

- ・授業の工夫(ただ難しい本を読んでいるだけでは身につかない)
- ・体育館が狭い
- ・とれる雑誌が少ない
- ・教職の負担が大きい
- ・研究室配属をスカウト制にしてほしい

生物科学コース

- ・シャワーをつけてほしい
- ・仮眠室がほしい
- ・トイレの場所が遠い
- ・研究室の扉の隙間風を何とかしてほしい
- ・教養科目での幅広い教育という点で良いものがあった

- ・教員によって対応が異なる
- ・このままでは採用試験(教員?)に受かる人がいなくなる
- ・もっと実践的な授業があると良い
- ・充実した有意義な大学生活であった
- ・なんとなく、やむなく大学院へ進学する人に対する配慮
- ・実りのあるキャリア教育
- ・履修可能上限をやめるべきだ

地球科学(地球史環境科学)コース

・レポートや課題を提出しただけで単位が取れるのではなく、その添削や返却を含めて次につながる指導をしてほしい

情報科学コース

- ・ 教員免許取得を目指している学生に、もっと実技の授業があつたらいいと思う。教育実践演習の授業がそれだとは思うが、教育実習に行く前(2、3年次)が望ましい。その辺は私大の方が力を入れていると個人的に思った。
- ・ 高知大学で4年間学ぶことができてよかったです。ありがとうございました。
- ・ KULAS が使いにくい。

応用化学コース

- ・ 大満足、これからも頑張ってください。僕も頑張ります。
- ・ 他大学と比較して物理化学の授業が極端に少ないように思う。もっと広く物理の授業をしてもらいたい。
- ・ 無機化学の授業はもっと難易度をあげてもいいと思う。
- ・ 他大学進学のためにもう少し高度な授業にすべきだと思います。
- ・ 1年次に基礎科学実験を前期後期ともに抽選もれをした。中学免許希望する自分にとって、4年の後期に基礎実験の授業をするのは正直、納得いかなかった。中学免許希望の人の抽選もれはないように考慮してほしい。

海洋生命・分子工学(生体機能物質工学)コース

- ・ ありがとうございました。

災害科学(防災科学)コース

- ・ 先生との距離が近いことが良い点だと思う。
- ・ 研究室は楽しかった。
- ・ 授業からサポートまですごくいい環境で大学生活を過ごすことができました。
- ・ 研究室配属前にもうすこしパソコン等の知識がつく授業を行ってほしい。
- ・ 全般的に充実していたと感じる。また、災害科学コースに関しては、高知は非常に恵まれていると感じる。
- ・ 就職支援をもっと親切に行うべき！
- ・ 教授の方々と話す時間が増えれば、学問の楽しさがわかる気がします。
- ・ 英語の科目が多いが、英語よりもまずは日本語で教育課程の中で学べる範囲をきっちり理解できるようにすることが大事だと思う。英語は学部レベルでは論文の訳ができるようになるということに重点を置けばそれ以上はほとんど重要でないのではないかと思う。